

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201988		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル屯田 1F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-35		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0190201988-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 午前・午後のレク活動を大切に行っています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市北部の住宅街に2020年12月に開設した新築2階建て2ユニットの事業所である。近隣にはスーパーやコンビニエンスストアがあり買い物には便利な立地である。新型コロナウイルス感染症が流行する中での開設であったため、頻繁な外出や面会に制限がある期間もあったが、利用者が閉塞感を感じないように内部研修で感染症について学び、感染対策をして屋外での「ティータイム」で気分転換をしたり、散歩や買い物などに出かけ利用者の希望を実現している。発語ができる利用者が多いため、管理者や職員は日頃の会話から利用者の思いや希望を聞き取り、おやつ作りにクレープやどら焼きなどを一緒に調理し、本人の望む暮らしを可能な限り実現している。毎月、利用者と職員が一緒になって制作する壁飾りは、ひまわりやとんぼなどをモチーフにしており利用者が季節を感じる事ができる。明るく清潔で開放的な共用空間は、キッチン、リビング、ダイニングと3つのエリアに分かれているため、自由に場所を選び過ごすことができる。共用空間では、動画配信サイトで動物の動画を見たり、好きな音楽を聴くことができ、日課として午前の体力低下を補うための体操と、午後のレクリエーションで作品作りや家族への手紙を書くなど、職員は利用者が出来ない事を手伝い支えている。利用者の気持ちに寄り添い安全で安心できる暮らしを実現している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	継続し実践している。安心して毎日が笑顔になれるよう寄り添っている。管理者と職員は理念を共有できている。理念に添い日々の業務に務めている。	理念は重要事項説明書に掲載し、利用開始前に本人や家族へ説明をしている。「明るく楽しく笑顔ある暮らし」の理念をスタッフルームに掲示し、職員が日々の業務で利用者も職員も共に楽しい思いを共有できる介護につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で実情は難しい。買い物レクで近所のコンビニを利用している。	感染症対策として利用者の頻繁な外出は難しい状況であるが、職員が利用者と一緒に散歩や近隣のスーパーやコンビニエンスストアへ買い物に出かけ、地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のスーパーやコンビニには出向いており理解して頂けている。事業所の理念を理解し、地域の方々に向け活かせるよう務めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面会議で行っているが、来訪された際はコミュニケーションをとり意見を頂くようにしている。少人数でのご家族様来訪となっているが、意見頂きサービス向上に務めている。細かな部分まで評価を行いサービスへ繋げていると思う。	管理者と職員の参加で運営推進会議を開催し、議事録を家族へ郵送している。運営推進会議の構成メンバーが確定されていないため、会議では中立的な立場の参加者の意見を聞く機会が不十分などところがある。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター、知見者などの中立的立場で参加できる人材を確保し、議題に応じて意見を求めるなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡や相談をさせて頂いている。町内会の方が時々来訪されるのでコミュニケーションをとっている。困難事例や書類など相談し協力頂いている。	必要に応じて連絡や確認事項の問い合わせと、おむつサービスや感染症関連での連絡と報告をしている。北区の連絡協議会からは郵送で情報が届いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お互いのケアをチェックしあい拘束の無いように努めている。研修を行い実践できている。身体拘束なく尊厳を重視したケアができていると思う。	「身体拘束等の適正化に関する指針」があり、身体拘束・権利擁護委員会を年4回開催し、それらに係るハラスメントやアンガーマネジメント等の研修を年3回実施している。気になる言葉かけは、管理者や職員同士が常に注意しあえる関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学ぶ機会があり再確認できている。委員会活動で行っている。マニュアルがあり日頃より入居者様のサインを逃さないように観察している。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に行かせてもらえるので学ぶことができる。研修で知識をつけご家族様・ご本人様に提案できるようにしている。研修を行っているので、必要性に関しても理解できている。成年後見制度については学ぶ機会をもち勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当者が行っている。ご家族様・利用者様に不安が無いよう行っている。契約時の他、ご家族様から問い合わせがあった際は随時対応している。ご家族様・ご本人様と何回かに分け説明行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望などは、共有し話し合い運営に反映できている。ご家族様に屯田通信を送っており意見等があれば話し合いの機会を設けている。	毎月、家族宛てに利用者の暮らしがわかる「屯田通信」を郵送している。家族の訪問時や電話で意見や要望を出してもらえるようにしており、家族からの意見は支援経過に記録している。	些細な家族意見も記録に残し、職員間で共有と確認ができる記録等の整備を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行っている。意見を出しやすい環境を作ってくれている。ご家族の意見は職員間で共有している。意見を聞く機会を設けてくれている。	管理者による人事考課の面談と本社で行う個人面談の場があり、職員の意見を聞いている。職員の提案を取り入れ、ケアの方法や福祉用具の見直しを行ったケースもある。有休休暇や休みの希望は、シフトを調整して働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談であげた意見を考慮してくれている。働きやすい環境を作ってくれている。職場環境は良好だと思う。給与水準は改善がひつようだが、やりがい・目標を持って働ける職場である。いつも心配りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報共有や受講までの手続きをしてくれる。力量にあう講習へ行かせてくれる。個々の能力合わせた研修をうける事ができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は外部との交流はないが今後行っていきたい。オンライン講習等で他スタッフとコミュニケーションがとれている。地区のGH内で情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況を踏まえご本人様の要望に傾聴し信頼関係を築いている。個々の情報を基に過ごしやすい環境となるよう務めている。観察を行い不安のない生活が送れるよう務めている。生活になれるまで混乱がみられるので、信頼関係を築けるよう務めている。診断名や調書にだけに頼らず信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後すぐは不安が強い為、来訪した際や電話時に日常の様子を伝え不安を取りのぞいている・話しやすい環境作りができていと思う。ご家族様の要望に真摯に対応するよう務めている。過剰なケアの提供にならないよう本人の様子や安全面を考慮した支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話合いの基対応できている。ご本人やご家族様が必要としている情報を共有し支援できている。面談時には起こりえるリスクや福祉用具を準備していく。ご家族との連携をとり信頼関係を築けるよう務めている。一緒に必要な課題を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や装飾品を作っている。役割を持ってもらい支えあいながら生活している。一人一人のニーズにあった暮らしを考え支えていきたい。役割を持った生活をし不安のない対応を行う。関係性は築けていると思う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には協力を頂いている。屯田通信で生活の様子を報告し小さな事でも話し合いができてい。受診等の支援も頂き協力関係を築く事ができている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や人数制限などを行っているが、電話や手紙などの取次ぎを行っている。状況に応じて途切れない関係性を配慮している。馴染みのある物をお部屋に置いている。ご本人様が大切にされている思いを共感し支援に努めている。	家族に本を届けてもらい趣味の読書を継続をしている。裁縫の得意な利用者は雑巾や手芸品を制作している。通っていた美容室に家族の送迎で訪れる利用者もいるなど、利用開始前の交流を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内の観察を行い、介入する事により関係性が築けるよう努めている。楽しい時間を過ごして頂けるよう介入し支援している。レクリエーションを通じて交流行っている。席に考慮しながらr会話が届くように対応している。体調や気分配慮しながら共同で制作を完成させる事で関わる機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば都度対応しフォローできればと考えている。今後の相談支援を説明し不安軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の為に定期的な面談や相談事など随時傾聴行っている。利用者様の希望や意見に耳を傾け意向に添うよう心がけている。ご本人様の生活リズム・スタイルに合わせられるよう務めている。	現在は発語困難者がいないため、日々の会話や入浴時の会話を利用し日頃の思いを聞いている。本人の訴えはアセスメントシートに記録し、外出先の希望は家族にも協力を得て実現をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに利用されてきたサービスや病院からの情報を頂き、情報共有に努めている。以前の暮らしに近づけるように支援行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況に合わせ能力を発揮できるよう役割をお願いしている。日常の様子を観察しその時々に対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い反映されている。ケアのあり方については、その都度話し合い反映出来るようにしている。職員間での情報共有をし課題に対して意見を出し合っている。	毎月、利用者全員に対するカンファレンスを行い、職員が利用者の状況を確認している。計画作成担当者が中心となり、本人や家族の意向を含め現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変や毎日の様子を記録する事で課題を見つける事ができる。申し送りやカンファレンスにて情報共有している。スタッフ間のコミュニケーションが取れているので伝達ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてより良い支援ができるよう取り組んでいる。「まずやってみよう」と色々な方法を試させてくれる。日々の変化に柔軟な対応ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が楽しめるよう制限の中で行っている。その方のできる事を考え楽しく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化はすぐに話し合いをし医療を受けられるようにしている。往診や健診など電話で相談を行い、専門医の紹介など行ってくれている。馴染のかかりつけ医の継続を行っている。	協力医療機関の往診を毎月受けている他、必要に応じて泌尿器科と歯科の往診も受けている。利用開始前のかかりつけ医や他科受診は家族の協力により通院しており、医療情報を共有している。	

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	とても良い関係性を気づけている。変化など記録に残し情報共有を行っている。短時間での訪問になる為、お互い協力し連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に対し密な情報共有を行っている。安心して治療が受けられるよう対応している。日頃より連携がとれているので素早い対応が取れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と相談し方針を決めている。GHのできる事・できない事を説明し、転居先を支援している。契約時にきちんと説明しており、その後変化も報告を行っている。事業所でできる事はチームで行っている。	重度化に関する指針を説明し同意を得ている。協力医療機関や看護師とは24時間連絡がとれるため急変時の対応ができる。重度化した場合は、本人と家族の要望を医師を含めて話し合い、医療機関等への移行が出来る体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し見える所に置いている。委員会等で定期的学び、ヒヤリや事故報告を会議時に再確認している。対応できるように職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を年2回行っている。みんなが参加できるようにスタッフの調整している。	令和3年6月に火災、12月に地震からの火災を想定した訓練を実施している。災害備蓄品は水や食料の用意があり、感染症対策用の備蓄品の確保も計画中である。	夜間想定で火災と地震以外の自然災害を想定した訓練の実施と、自然災害における業務継続経計画(BCP)の策定を検討中であるため、その取り組みに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々忘れないよう心がけている。スピーチロックにならないように気をつけている。人格を尊重するよう努めている。馴染みのある方言・言葉かけに注意し対応行っている。	利用者に対して不適切な声かけがあった場合は、その都度、管理者が改善するよう職員に促している。書類などは鍵付きのキャビネットに保管し、プライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に添えるよう対応している。選択できるよう声掛けをしている。自身で決めれるよう耳を傾け支援している。感情表現出しやすい・話かけやすい環境作りを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で強制することなく心身状況に応じて支援行っている。活動や自由時間も自分のペースに合わせて過ごせるようにしている。本人のリズムを尊重しているが、難しい時はきちんと理由を説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の服は、選んで頂くよう支援している。身だしなみやおしゃれが継続できるよう使われていた物を持ち込んで頂いている。介助が必要な方には、聞きながら職員が支援している。季節感のある服装・外出着を提案するなど支援している。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど一緒に行っている。好みを事前に伺っており食事内容を変更したりと対応している。おにぎりを作ったりと食べて頂けるよう工夫をし、片付けに関しては役割があり行って頂いている。食事レクを行っている。	日常の食事は専門業者の献立を使用しているが、利用者の好みに合わせて変更している。さらに、利用者と職員が一緒になって、クレープやどらやきなどのお菓子作りをする機会を設け、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は、声掛けを行い把握を行っている。摂取量が減ってきた時は記録に残し、主治医に相談し対応している。水分量が少ない場合は、好みの物を提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。その方の能力に合わせた声掛けを行い仕上げ等の対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った排泄介助を行っている。定時誘導が必要な方には声掛けを行い失敗を減らすよう務めている。その方に合わせたパット選びや声掛けを行っている。排尿の間隔・排泄チェックを行いトイレ誘導を行っている。	職員の支援により立位を取ることが難しい利用者の場合も、トイレでの排泄ができるよう取組んでいるため、利用者のほとんどがトイレで排泄を行っている。また、水分摂取量や排泄回数を送り情報に記録し、常に利用者の健康状態に気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳など提供している。水分管理や適度な運動など行い取組んでいる。排便コントロールがうまくいかない場合は、主治医と相談し内服にて対応行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、ご本人様の希望で変更も行っている。声かけや方法など考え支援している。入浴の気分でない時は、声かけの時間を変更したり曜日を変更したりと対応行っている。	入浴時間の長さは体調に影響が出ないよう配慮しながら、利用者の希望を尊重している。入浴中は歌をうたったり、職員と話を楽しく過ごしている。利用者全員が入浴できるように声かけなどの工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を理解し安眠できるよう支援している。お部屋に戻り休息したい時などは、自身で決めて頂いている。その日の様子や状況をみて対応している。昼夜逆転にならない程度に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の変化を確認するよう努めている。薬性はファイル内にあるので把握するよう務めている。内服時は、飲みきるまで見守り行っている。薬変更があった際は、情報共有し理解に務めている。どのような薬を内服しているか理解し事故にないよう務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションを行い、出来る事の把握をしている。ストレスが見られる方は、外出したり気分転換を行っている。役割を持って頂いている。誕生日会やレク行事食など企画し楽しみをもてるように取り組んでいる。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春に向けて外出できるよう支援していきたい。コロナの為にできていない。散歩や庭でのコーヒー近隣のコンビニ外出など少人数で行くなど工夫している。できる限り希望に添うように務めている。	感染症の流行により外出の機会は制限されているものの、対策をしっかりと行い近所の散歩やコンビニエンスストア、スーパーへ買い物に行くこともある。また、事業所の敷地内で「ティータイム」として外でお茶を飲む機会を設けるなど、できる限り屋外に出られる工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預かりとさせて頂いているが、買い物時はご本人様へお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方との電話は要望に添って行っている。取次ぎ対応行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や室温に気をつけている。季節を感じる事ができる制作を展示している。混乱の内容声かけ行い不快の内容清潔に保っている。足元に危険がないよう明るくきれいなフロア作りができていと思う。トイレや浴室のドアが色分けされており大きな表示になっている。	リビング、ダイニング、キッチンでエリア分けをすることで、利用者の好きな場所で音楽を聴いたり、動物の動画を見るなどして、くつろぐことができる造りになっている。壁には月に1度、利用者と職員が一緒に制作したひまわりやとんぼなどの大きなちぎり絵を掲示していて、季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席やテーブル席でお話ができるよう居場所を提供している。気の合う入居者様と過ごせるよう椅子等の配置を配慮している。居室で過ごしたいと希望があった際は無理に強要せず支援行っている。楽しく過ごして頂けるよう椅子などの配慮を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を持ってきて頂いている。ご本人様と一緒に掃除を行い空間作りに務めている。居心地のよい空間作りができるよう支援している。	居室にはクローゼット、電動ベッド、カーテンが備え付けてある。利用者はこれまでの生活で使っていた収納箱や仏壇、読書のための本や編み物の道具などの趣味のものを持ち込んでいて、居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行時の動線を作り自身で安全に歩けるよう支援している。女性が多いのでキッチン周りの空間を広く活用している。安全で自立した生活ができていと思います。一人一人の残存能力をスタッフ間で共有し把握する事に務めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201988		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル屯田 2F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-35		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 午前・午後のレク活動を大切に行っています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0190201988-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は理解し実施している。実施できるように心がけている。理念の共有はできているがコロナ過の為あまりできていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住人の入居もあり、地域に開かれた事業所であるように花壇など整備等を行っている。コロナ過の為地域とのかかわりを控えている。外出や散歩など機会が少ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への活動は行っていないが、地域のお店で買い物を行ったりと心がけている。管理者が行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での会議録作成となっているが、事故報告やヒヤリハット・運営状況に関してはご家族様へ報告が行えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な事は、介護保険課や区役所へ問合せを行い、指導を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会や研修を行っており、身体拘束を理解し職務にあたっている。玄関施錠に関しては、交通量も多く夜間は防犯の為にやっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、何が虐待となるのか理解し業務を行っている。注意を怠らないようにしている。職員同士声掛けを行い防止に務めている。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	KPが協力頂ける方が入居されており今現在が該当者はいないが知識として学ぶ必要がある。活用していけるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。コロナ過での時短での契約や説明となっているが、短時間でも回数を重ねご説明し不明な点等があれば電話対応で答えるなど実施できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時にて本人の希望やご家族様の意向を確認し業務に反映されている。利用者様の意見や要望は日常生活からくみ取っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から話をする機会を設けてくれるので意見を言い反映してくれている。カンファレンスにて職員の困りごとを把握し反映されている、運営に関する意見や提案等はあまり聞かれない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を実施。希望する勤務日数や時間数をシフト調整行っている。働きやすい環境を整えられるよう務めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修や個々に学習する機会がある。実践者研修等、適任者を参加させ育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のGHとの職員交流はある。コロナ過の為以前よりは交流する機会があまりない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活ができるように利用者様とコミュニケーションをとり過ぎていけるよう支援している。利用者様の声に耳を傾けながら接している。できる事・できない事・したい事を確認し傾聴するようにしている。本人らしい暮らしができるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に応えられるよう心がけている。ご家族様の不安などを理解し安心して頂けるよう対応する。ご家族様の協力もお願いしながら利用者様の生活を支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安を解消できるよう対応を行っている。ご家族様・ご本人様が必要としているサービス内容を理解し対応行う。信頼関係作りに務める。ご家族様は入居後の混乱を不安視されているので、しっかりと説明し安心して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら支えていきたい。利用者様が出来る事を一緒に行っている。利用者同士の助け合いも促しながら困りごとなどのヒヤリングを早い段階で行うようにしている。悩みや不安な事など聞き良い関係性になるよう務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化などをご家族様に伝え情報共有を行っている。電話をかけたいと話される時は、連絡行い関係性を保てるように行っている。感染予防を行いながら短時間面会など行い、顔を忘れてしまうというご家族様の気持ちに寄り添った対応をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と外出する時間を取り気分転換できる時間を作っている。利用者様からの昔の話を聞いたりと思い出話などで楽しんで頂いている。以前から通われていたHPや美容室など無理に変更せず継続して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う・合わないと関係性があるので、ストレスを感じないように支援している。利用者様同士の会話の場を作ったりレクリエーションでの関りを考え支援している。利用者様同士が楽しく過ごせるよう務めている。自主性を重視し必要時には職員が介入し対応している。座る席などに配慮している。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了者はまだいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由と制約の折り合いをつけながら本人の意向をできるだけ尊重している。集団生活の中で職員と色々考え共有する。入浴時などに普段聞けない事などの聞き取りを行い把握に努めている。一人一人の状態を把握し表情をくみ取るように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の情報での理解をしているが、本人からも話を聞き把握に努めている。ご自宅などでの生活を聞きケアに生かしている。趣味などもご本人やご家族様に聞きいさせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	AM・PMそれぞれの個性を把握し習慣化できるようにスケジュールを組んでいる。日常生活を理解し支援していく。スタッフ間で共有し対応を行っていく。会議等で話し合いをし支援に務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安定・安心した生活ができるようスタッフ間で話し合っている。カンファレンスの見直しを行っている。現状の把握を行いスタッフ間でケアに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細に記録を残すように話し合っている。引き継ぎの際も強化を行っている。しっかりと記載し近況が分かるようにしている。情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物は必要に応じて対応しご家族様の不安軽減を行っている。意見を出し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過であまりできていないが、ご本人様ができることをして頂き楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう支援している。専門医等の受診はご家族様と話し合いで決めている。ご家族様、医療との連携を取り支援できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時々、相談行いながら支援している。現状を報告し指示を仰いでいる。週5日訪問してくれるので体調不良時等は相談行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有し対応できるように努めている。主治医を通して入院先に必要な情報を提供している。病院からの情報を頂き共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者・計画作成者が対応してくれている。入居時に説明行い同意書を取り交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員が日頃から把握しておく必要がある。マニュアルに従い報告・対応をしている。緊急時の連絡等をスタッフ間で把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・災害の避難訓練を行っている。地域の人々が避難できる場所として開放する。今後も地域との協力体制に力を入れていく。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しながら言葉かけに気を付けている。ゆっくりと話す事、言葉使いや距離感に注意する。スタッフ間で話し合い配慮に欠けている部分は、常に見直しを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望はなるべく配慮し周りの調和を取りながら対応行っている。表情や会話を観察し自己決定ができる環境づくりを心がけている。利用者様の体調や気分を把握し働きかけるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など応じることができない事もあった。利用者様に合わせた支援ができるよう努めている。体調や気分に合わせて対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に選んで頂き対応している。化粧やクリームなど使用して頂き、自己決定を促している。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや片付けなどできる事を行って頂いている。一緒に食事を作ることは、コロナ過になり行っていない。一人一人の意見を聞きながら食事レクの際に反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は目標をたて摂取して頂いている。体重の増減を把握し食事量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方・できない方に合わせて支援している。毎食後行い、歯ブラシが難しい方はスポンジ等を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前には声掛けを行い促しを行っている。トイレでの排泄ができるよう誘導し支援を行っている。排泄パターンや習慣を理解しトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品など個人に合わせて提供し便秘予防を行っている。下剤の調整や運動、水分量を把握し取り組んでいる。看護師の指示もらいながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の気分でない時は、日程を変更したり時間を変更したりと対応を行っている。入浴時間や温度を把握しゆったりは入れる環境づくりを行っている。できない部分の支援を行いそれぞれの対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを利用し、トイレ誘導を行っている。生活リズムを作り日中の睡眠時間に気を付けている、その日の体調を把握し休息を取り入れたりと支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し変更があった際など把握に努めている。毎日確認するようにしている。誤訳が無いよう情報収集を行っている。薬の把握はまだまだできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは、得意・不得意を考慮し楽しんで頂けるよう支援している。笑顔で過ごせるよう支援している。ここが楽しみを持って生活していける様支援していく。誕生日会やイベントごとに参加して頂く。		

グループホームウェルスタイル屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の支援を頂きながら、買い物外出など行って頂いている。相談行いながら気分転換の機会を作って頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が持っている事は、トラブルになってしまう為金庫にお預かりしている。依頼があった物など購入しているがご家族様へ確認し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は支援している。携帯電話の持ち込みに関しては行ってない為、夜間・早朝以外であれば希望時の電話対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓とソファ席に分かれており、好きな空間で過ごして頂ける。季節ごとの作品を利用者様と作成しフロアに飾り楽しんで過ごしている。トイレは1日2回掃除行い、汚染があればその都度対応している。居心地の良い空間作りに務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立しないよう、食卓席やソファ席を配慮し声掛けを行っている。入居者様同士の関係を把握し落ち着いた空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や使い慣れた物など入居の際に持ってきて頂き居心地の良いお部屋作りを行っている。好きな花や本など持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた生活空間の中で、安心・安全で生活できるよう支援している。階段は職員が利用し、転落防止を行っている。フロアや廊下には移動する際に邪魔になるものは置かないように配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ウェルスタイル屯田

作成日：令和 4年 2月 19日

市町村受理日：令和 4年 2月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を書面にて開催行っていたが、感染対策にて中立的な立場の方の意見を頂きながらの開催ができていなかった。	町内会や民生委員の方を構成メンバーとして参加して頂き屯田地区での意見等を取り入れていく。	運営推進会議への参加を呼びかけ。参加できない場合でも、内容を確認して頂き意見を頂く。屯田地区との関わりを増やしていく。	2か月
2	10	毎月の様子をお知らせしたり、訪問時にはしっかりとご報告を行っておりご家族様との関係性作りは行っているかと思うが、その時に話を行った事など記録には残しているが些細な会話のやり取りに関しては口頭での申し送り等で行っていた。	ご家族様との些細な意見もしっかり記録し、スタッフ間で共有できるものを作成する。どのスタッフが対応しても統一した対応ができるようにする。	個別に何でも記載できる書式を作成する。電話の内容や来訪時などご家族様が話された事、職員が伝えた事などを記載する。計画作成担当者が支援経過に記録する。	4か月
3	35	夜間想定での避難訓練対応、BCPの策定中である。	夜間想定での訓練。その中でも、自然災害時も一緒にい連絡方法や対応方法についても再度確認していく。	令和4年6月の訓練は、夜間想定で行う予定。職員へも連絡方法や夜勤者が一人で誘導行う対策など検討行う。災害が起きた時の備品の使用方法を確認し混乱がなく対応できるよう訓練を行う。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。